九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

# [2024/2025]九州大学附属図書館研究開発室年報表紙奥付等

https://hdl.handle.net/2324/7387264

出版情報：九州大学附属図書館研究開発室年報. 2024/2025, 2025-09-18. Kyushu University Library
バージョン：
権利関係：

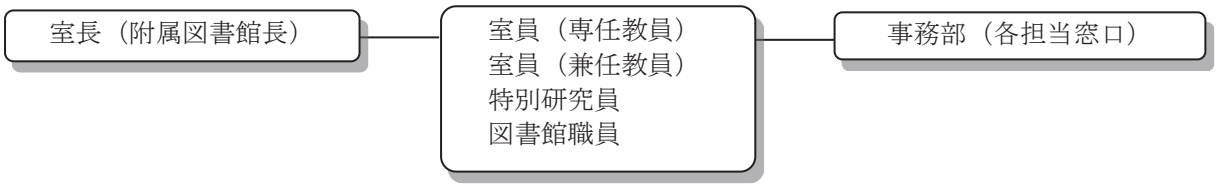
KYUSHU UNIVERSITY

# 研究開発室の設置

## 1　設置の目的

九州大学附属図書館研究開発室は、大学における学術情報の収集、加工、蓄積、提供及びその他図書館が行う教育研究支援活動の改善に関する事項のうち、附属図書館長が指定する事項について研究開発を行い、もって高度な図書館サービスの実現に寄与することを目的とする。

## 2　組織




## 3　名簿

＜令和６年度（4月1日付）＞

| | |
|---|---|
| 室長 | |
| 谷口　倫一郎 | 附属図書館長、理事、副学長 |
| 室員 | |
| 井手　誠之輔 | 附属図書館副館長、<br>人文科学研究院教授 |
| 渡邊　由紀子 | 附属図書館研究開発室准教授 |
| 清水　敏之 | 附属図書館研究開発室准教授 |
| 三輪　宗弘 | 附属図書館付設記録資料館教授 |
| 梶嶋　政司 | 附属図書館付設記録資料館助教 |
| 原口　大輔 | 附属図書館付設記録資料館准教授 |
| 川平　敏文 | 人文科学研究院教授 |
| 岩﨑　義則 | 人文科学研究院准教授 |
| 中里見　敬 | 言語文化研究院教授 |
| 冨浦　洋一 | システム情報科学研究院教授 |
| 畑埜　晃平 | システム情報科学研究院教授 |
| 池田　大輔 | システム情報科学研究院准教授 |
| 石田　栄美 | データ駆動イノベーション推進本部教授 |
| 山田　政寛 | データ駆動イノベーション推進本部教授 |
| 岡田　義広 | データ駆動イノベーション推進本部教授 |
| 永島　広紀 | 韓国研究センター教授 |
| 赤司　友徳 | 大学文書館准教授 |
| Wolfgang Michel | 研究開発室特別研究員 |
| 吉田　素文 | 研究開発室特別研究員、<br>熊本大学教授 |
| 和仁　かや | 研究開発室特別研究員、<br>早稲田大学教授 |
| 古賀　康士 | 研究開発室特別研究員、<br>同志社大学准教授 |
| 平　　将志 | 研究開発室特別研究員、<br>九州産業大学講師 |

＜令和７年度（4月1日付）＞

| | |
|---|---|
| 室長 | |
| 内田　誠一 | 附属図書館長、理事、副学長 |
| 室員 | |
| 福田　千鶴 | 附属図書館副館長、<br>基幹教育院教授 |
| 渡邊　由紀子 | 附属図書館研究開発室准教授 |
| 清水　敏之 | 附属図書館研究開発室准教授 |
| 梶嶋　政司 | 附属図書館付設記録資料館助教 |
| 原口　大輔 | 附属図書館付設記録資料館准教授 |
| 川平　敏文 | 人文科学研究院教授 |
| 岩﨑　義則 | 人文科学研究院准教授 |
| 山口　道弘 | 法学研究院教授 |
| 中里見　敬 | 言語文化研究院教授 |
| 冨浦　洋一 | システム情報科学研究院教授 |
| 畑埜　晃平 | システム情報科学研究院教授 |
| 池田　大輔 | システム情報科学研究院准教授 |
| 石田　栄美 | データ駆動イノベーション推進本部教授 |
| 山田　政寛 | データ駆動イノベーション推進本部教授 |
| 永島　広紀 | 韓国研究センター教授 |
| 赤司　友徳 | 大学文書館准教授 |
| Wolfgang Michel | 研究開発室特別研究員 |
| 和仁　かや | 研究開発室特別研究員、<br>早稲田大学教授 |
| 古賀　康士 | 研究開発室特別研究員、<br>同志社大学准教授 |
| 平　　将志 | 研究開発室特別研究員、<br>九州産業大学講師 |

# 令和６年度における研究開発

## 1　図書館による学習・教育支援に関する調査研究

室　　員　井手誠之輔　（附属図書館副館長、人文科学研究院教授）
渡邊由紀子　（附属図書館研究開発室准教授）
清水　敏之　（附属図書館研究開発室准教授）
山田　政寛　（データ駆動イノベーション推進本部教授）
担 当 課　利用者サービス課、学術サポート室

＜研究開発の概要＞

九州大学における学習・教育活動と連携した新たな教育支援のあり方について調査研究を行うとともに、図書館利用状況の分析にもとづく、新たなサービスの創出に関する調査研究を行う。

＜研究開発の内容＞

研究開発室に組織された「学習・教育支援WG」による監督・指導の下、図書館TA(Cuter)の大学院生と図書館職員が協働し、学生の視点に立った学習支援を行った。図書館TA(Cuter)は、平成24年3月に図書館学習サポーター(Cuter)として活動を開始し、平成27年12月に正課外での教育支援業務を行うTAとして、学内の教育制度に正式に位置づけられた。さらに令和元年10月より、九州大学の新TA制度開始に伴い、「九州大学ティーチング・アシスタントに関する要項」で定められた、アドバンスド・ティーチング・アシスタント(ATA)として活動している。

令和6年度に実施した調査研究は、以下のとおりである。

1) 図書館TA(Cuter)との協働による学習支援

図書館TA(Cuter)による学習支援活動として、以下を実施した。

①学習相談デスクでの案内・指導…対面で291件、附属図書館ウェブサイトの質問フォームで18件、計309件の相談に対応した。相談対応件数は、令和5年度の約1.2倍に増加した。

②Web学習ガイドCute.Guidesの記事作成…図書館TA(Cuter)による新規ガイドを16件追加した。Cute.Guidesで公開中のガイド数は249件、年間アクセス数は約153万件となった。

③講習会等の講師および補助…図書館TA(Cuter)が内容設計・教材作成・講師を務める学部1年生向けの「レポートの書き方講座」「実験レポート講座」「プレゼン講座」を実施した。計12回の開催に対し、延べ837名の受講があった。「レポートの書き方講座」では、講座受講前後のレポートに対するイメージ変化を分析した。事前・事後アンケートの自由記述での回答をPositive/Neutral/Negativeの3つに分類したところ、講座受講により、レポートをNegativeに感じている学生の割合は85.5％から24%へ減少し、Positiveに感じている学生の割合が0.5%から38.5％に増加したことが分かった。

④学生交流イベントの企画・実施…図書館TA(Cuter)が特定テーマについて取り上げるシリーズ企画Cuter Caféを対面とオンラインで計8回開催し、延べ122名の参加があった。また、学部・学府・学年の垣根を越えた学際交流を図るイベントQuriconを対面とオンラインで計2回実施し、29名の参加があった。

⑤企画展示…図書館TA(Cuter)が選書した資料を展示する「Cuter本棚」を計6回実施した。医学図書館においては、丸善博多店での選書ツアーを実施した。

⑥授業等への協力…高年次基幹教育／大学院基幹教育科目である「プレゼンテーション基礎」「レトリック基礎」の集中講義において、図書館TA(Cuter)2名が授業補助を務めた。また、福岡市科学館が小学4年生以上を対象に開催するイベント「サイエンスカフェ」において、図書館TA(Cuter)2名が講師を務めた。

2) 教育の国際化に対応した図書館利用教育の拡充

留学生を支援する取り組みとして、以下を実施した。

・図書館職員が、文献検索および文献管理について、留学生を対象とした英語による講習会を実施した。文献検索講習会「How to Search for Academic Papers」では、令和6年4,5月および10月開催時のいずれも、受講者の100%が講習会を「とてもよい」「よい」と評価した。

・新入留学生を対象とした英語と日本語による図書館ツアーを令和6年4月および9月に中央図書館で実施し、図書館TA(Cuter)がツアーコンダクターを務めた。国際部が実施する新入留学生オリエンテーション参加予定者数のうち、令和6年4月は約57%、9月は約59%がツアーに参加した。

3) 基幹教育支援の拡充

九州大学が実施する基幹教育を支援する取り組みとして、以下を実施した。

・授業担当教員の推薦をもとに基幹教育用図書を選定し、中央図書館4Fの課題文献コーナーに配架した。

・基幹教育を支援する講習会について、学部1年生向け「レポートの書き方講座」「実験レポート講座」「プレゼン講座」を開催した。レポートの書き方講座・プレゼン講座は対面とオンライン、実験レポート講座はオンラインで実施した。

・全学部の新入生が受講する必修科目「課題協学」のガイダンスに際し、図書館の活用法に関する教材を作成し提供した。

4) Web学習ガイドCute.Guidesによる課題解決支援

Web学習ガイド「Cute.Guides」の記事を、国立国会図書館が全国の図書館等と協同で構築する「レファレンス協同データベース」に“調べ方マニュアル”として積極的に登録および一般公開した実績により、令和元年度から6年連続で、国立国会図書館長より御礼状を受領した。令和6年度は「レファレンス協同データベース」上で計19,529件のアクセスがあり、令和5年度の約2.6倍に増加した。

5) 学習支援を推進する人材育成

図書館職員および図書館TA(Cuter)の人材育成を促す取り組みとして、本調査研究の成果について、以下の事例発表および意見交換を実施した。

・「第12回大学図書館学生協働交流シンポジウム」に図書館職員4名および図書館TA(Cuter)2名がオンラインで参加し、図書館TA(Cuter)の活動に関する活動報告や、他大学参加者との意見交換を行った。

・九州大学の学生団体medien-lien公式noteに、図書館TA(Cuter)へのインタビュー記事を計3回掲載した。

## 2　電子教材の著作権に関する調査研究

**室　　員　岡田　義広　（データ駆動イノベーション推進本部教授）**
**吉田　素文　（附属図書館研究開発室特別研究員）**
**担 当 課　図書館企画課**

＜研究開発の概要＞

電子教材作成にかかる著作権処理問題について調査研究を行う。

＜研究開発の内容＞

本事項は、一連の法改正終了により著作権処理に係る問題が落ち着いたことを受け、令和6年度を以て休止することとなった。

## 3　九州大学所蔵資料および資料保存に関する調査研究

| | | |
|---|---|---|
| 室　　員 | 川平　敏文 | （人文科学研究院教授） |
| | 岩﨑　義則 | （人文科学研究院准教授） |
| | 中里見　敬 | （言語文化研究院教授） |
| | 永島　広紀 | （韓国研究センター教授） |
| | 赤司　友徳 | （大学文書館准教授） |
| | 三輪　宗弘 | （附属図書館付設記録資料館教授） |
| | 梶嶋　政司 | （附属図書館付設記録資料館助教） |
| | 原口　大輔 | （附属図書館付設記録資料館准教授） |
| | Wolfgang Michel | （附属図書館研究開発室特別研究員） |
| | 和仁　かや | （附属図書館研究開発室特別研究員） |
| | 古賀　康士 | （附属図書館研究開発室特別研究員） |
| | 平　　将志 | （附属図書館研究開発室特別研究員） |
| 職　　員 | 佐方　小弓 | （収書整理課図書受入係） |
| | 原賀可奈子 | （収書整理課図書目録係） |
| | 山根　泰志 | （eリソース課） |
| | 平野かおる | （eリソース課リポジトリ係） |
| | 岡村菜々子 | （eリソース課eリポジトリ係） |
| | 羽賀真記子 | （利用者サービス課資料サービス係） |
| | 髙橋　　啓 | （利用者サービス課サービス企画係） |
| | 日高　　環 | （医学図書館閲覧係） |
| | 古賀　京子 | （医学図書館相互利用係） |
| | 中村　智晴 | （医学図書館参考調査係） |
| | 宮嶋　舞美 | （芸術工学図書館目録情報係） |
| | 西　真里恵 | （筑紫図書館図書係） |
| 担 当 課 | 収書整理課、eリソース課、利用者サービス課、医学図書館 | |

＜研究開発の概要＞

九州大学が所蔵する貴重資料、コレクション等について、由来や内容、価値等の調査や、画像及び書誌データベース作成等についての調査研究を行うとともに、図書館における資料保存・管理体制等についての調査研究を行う。

＜研究開発の内容＞

**1.　貴重図書(主題別)目録作成のための調査**

川平敏文室員の指導のもと、中央図書館貴重図書(和本主題別)目録作成のための貴重図書調査を人文科学府の研究員・大学院生が参加し、令和4年度から開始している。

**2.　「続・雅俗繚乱」展開催のため準備**

川平敏文室員の監修のもと2024年5月～６月にかけて開催された第61回貴重文物展示「続・雅俗繚乱」展に向けての調査・研究を、人文科学府の研究員・大学院生とともに行った。また会期中の5月18日に附属図書館内で記念講演を、6月15日には九州大学国語国文学会にて関連発表を行った。

**3.　支子文庫本『大和物語』のTEI化**

川平敏文室員の監修のもと、支子文庫本『大和物語』（重要文化財）のTEI（Text Encoding Initiative）化を、人文科学府の大学院生が行った。

**4.　楠本家資料の調査**

平戸藩の儒学者であった楠本家に伝来した文書（楠本家資料）のうち、幕末期に活躍した端山・碩水兄弟

が残した往復書簡類について、目録調査と史料原文の翻刻を行った。なお、目録作成と史料翻刻にあたっては、岡田武彦「楠本端山書翰」（『九州文化史研究所紀要』14号・1969年）との比較対照を行い、1969年（昭和44年）時点の史料伝来状況などを逐一確認しつつ調査を行った。令和7年度についても、引き続き、書簡類の他、記録類・写本漢籍類についての調査と目録作成を行う。

**5. 濱文庫所蔵戯単・レコードのデータベース化**

科研費・基盤研究（C）「日本所蔵中国戯単の総合的研究」（2021～2026年度）により、濱文庫に加えて、名古屋大学附属図書館青木文庫、慶應義塾大学図書館および文学部中国文学研究室、早稲田大学演劇博物館と連携して、日本に所蔵される中国戯単の学術的研究とともに、戯単の電子公開や機関横断的検索システムの構築などを進めている。今年度は慶應義塾大学に所蔵される奥野信太郎旧蔵の戯単の図録作成に向けて、資料の整理を行った。

**6. 麻生家文書**

1) 目録公開

・原口大輔「新規整理分「麻生家文書」目録（五）」『石炭研究資料叢書』第46輯（令和6年11月刊行）

→令和5年度新規整理分約17,000点のうち、8,522点の史料目録を公開。

・原口大輔「新規整理分「麻生家文書」目録（六）」『石炭研究資料叢書』第47輯（令和7年3月刊行）。

→令和6年度新規整理分約22,000点のうち、8,195点の史料目録を公開。

2) 講演会：第19回福岡市史講演会　近代都市福岡の発展と筑豊炭坑家

・日時：令和６年10月14日（月・祝）午後1時～午後4時40分

・場所：九州大学西新プラザ大会議室（ハイブリッド形式）

・主催：福岡市博物館市史編さん室・福岡市史編集委員会・九州大学附属図書館付設記録資料館

・プログラム

講演：遠城明雄（九州大学大学院教授／福岡市史編集委員会近現代専門部会副部会長）「福岡市の都市発展と市政の展開」

報告：日比野利信（北九州市立自然史・歴史博物館学芸員／福岡市史編集委員会近現代専門部会専門委員）「安川敬一郎と福岡市」、原口大輔（九州大学附属図書館付設記録資料館准教授）「麻生太吉と福岡市」

シンポジウム「近代都市福岡の発展と筑豊炭坑家」：パネラー：遠城明雄、日比野利信、原口大輔、コーディネーター：有馬学（九州大学名誉教授／福岡市史編集委員会委員長）

※福岡市博物館公式YouTubeで公開。

**7. 法制資料の調査・研究**

科研費基盤研究(C)「近世債権法史の再検討―九州大学所蔵資料を手掛かりとした研究基盤の再構築―」(2021～2025年度/研究代表者:和仁かや(早稲田大学))により、引き続き記録資料館法制資料部門所蔵資料を中心に整理及び調査研究を進めている。今年度は金田文庫中の文書群のうち、各種証文類を始めとする未整理史料300点弱の調査および対応を行った。

また、キャンパス移転以来従事してきた、法制資料部門所蔵資料の中核である法制史料の蒐集過程の詳細や管理の歴史に関する調査で得られた知見をまとめ、「九州大学法制史料―九州帝国大学法文学部の学問基盤―」と題して『法政研究』91巻4号（九州大学法学部創立百周年記念論文集、2025年3月）に掲載した。これにより、法制史学上重要な存在でありながらもその来歴など必ずしも判然としなかった法制史料の形成過程が、その全貌とともに漸く明らかになり、学際的な雰囲気の中で学問基盤が築かれた法文学部の意義を、ちょうど創設百周年の節目に再評価するものとなった。

**8. 資料保存関係**

1) 虫害対策

中央図書館において、冷凍庫を用いた低温殺虫処理を定期的に実施している。令和6年度は受入前の古典籍を中心に、年間で約820点の処置を行った。

医学図書館においては、虫害対策の一環としてトラップ調査を試行した。また、旧制学位論文資料（724点）を中性紙箱に収納し、シーボルト『日本植物誌』とともに脱酸素処理を行った。さらに、久保記念館から移設した貴重資料（199冊）および別府図書室から移設された貴重資料（11冊）には燻蒸処理を施し、貴重書庫に保存した。加えて、外部貸出から返却された貴重資料については、低温殺虫処理または脱酸素処理を行う体制を整備した。

2) カビ対策

中央図書館において、令和6年5月、3階3Bエリアでカビの発生が確認された。その後も散発的にカビの発生した資料が見つかっており、都度、周辺の書架を点検し、該当資料はアルコールで清拭・乾燥した上で書架に戻している。環境対策としては、多湿期における備え付け除湿機の稼働時間を延長するとともに、家庭用除湿機を当該エリアに設置し、大幅な悪化は防げている。令和6年度中に原因が特定できておらず、施設部と連携しながら環境改善に取り組んでいる。

理系図書館においては、カビ資料対策として令和6年度は多くの清掃作業を行った。自動書庫資料36,195冊（業者委託34,833冊、職員1,362冊）学位論文資料1,198冊。また、自動書庫内の湿度をリアルタイムに観測できるデータロガーを10機設置し今後の環境管理も強化した。また、エントランスに展示されている絵画の額縁に白い付着物が見つかり、調査の結果、カビの発生が判明。掃除機やアルコールで除去し、調湿剤とデータロガーを設置。外気の影響を考慮し空調設定も見直し、湿度管理を強化した。

3) 環境管理

中央図書館の温湿度状況について、これまでリアルタイム監視のみだった貴重書庫にデータロガーを設置し、記録の保管を開始した。年度末にはさらにマイクロ庫にもデータロガーを新設した。

医学図書館においては、展示ケース内の温湿度調査を実施した。その結果を踏まえて調湿剤を設置し、資料の展示環境を改善した。

4) 「貴重資料の利用及び貴重資料の展示のための外部機関貸出について」調査実施

貴重資料の館内利用および展示のための外部機関への貸出について、本学と同程度の規模、もしくは一定以上の貴重資料コレクションを所蔵する大学図書館を対象に調査を実施した。この結果を参考に、中央図書館における貴重資料の利用・展示および外部機関への貸出に関するルールを策定する予定である。

5) 研修の実施

図書系職員初任者研修において「資料保存について」の講義を担当した。

6) 研修への参加

一橋大学社会科学古典資料センター主催で行われた令和6年度西洋社会科学古典資料講習会に職員1名が参加し、3日間の日程で、西洋社会科学古典研究、西洋書誌学、西洋古典資料の保存・管理に関する講義を受講した。また、京都大学人文科学研究所附属人文情報学創新センター主催で行われた令和6年度漢籍担当職員講習会（中級）に職員1名が参加し、5日間の日程で、漢籍の分類や漢籍整理法に関する講義・実習を受講した。

## 4　図書館に係る学術情報の流通および発信に関する調査研究

**室　　員　清水　敏之　（附属図書館研究開発室准教授）**
**冨浦　洋一　（システム情報科学研究院教授）**
**畑埜　晃平　（システム情報科学研究院教授）**
**池田　大輔　（システム情報科学研究院准教授）**
**石田　栄美　（データ駆動イノベーション推進本部教授）**
**職　　員　宮﨑　祐汰　（利用者サービス課学習・研究支援係）**
**担 当 課　eリソース課**

＜研究開発の概要＞

学術情報資源（研究データ等を含む）をより効果的に蓄積・発信するために、管理・発信機能の高度化と検

索システムに関する研究開発を行うとともに、それらを活用した新たなサービスの創出に関する調査研究を行う。

＜研究開発の内容＞
研究データの多くは数値や画像の集合であるため、論文検索の場合と異なり、データ自身を直接検索の対象として全文検索しても意味がない場合が多く、求める研究データを発見するのは相当に難しい。大規模言語モデルを活用した、研究データの推薦手法、および、想定されるデータの利用法に基づいたデータ公開時のメタデータ（キーワード）の推薦手法について検討した。
さらに、データ公開を行うデータリポジトリ等の管理者がメタデータの整備に積極的に関与し、不足している情報を補うことや、データの利用法などのデータ提供者が認識しづらい情報を付加することを考えた。特に、DIAS（データ統合・解析システム）において管理されている地球環境データのメタデータについて、実際に付加情報を管理して利用者に提示する機能を開発し、有効性を議論した。

データセットに関連した取り組みとしては、既存の公開データセットがどのようなバイアスや偏りを持っているか、フェイクニュースと皮肉検出のデータセットについて調査し、論文誌で発表した。

## 5　図書館における高度専門知識を有する人材育成に関する調査研究

**室　　員　渡邊由紀子（附属図書館研究開発室准教授）**
**石田　栄美（データ駆動イノベーション推進本部教授）**
**担 当 課　図書館企画課、学術サポート課**

＜研究開発の概要＞
国内外の図書館の動向を踏まえつつ、図書館職員の専門性および次世代を担う情報専門職の育成をはかるための調査研究を行う。

＜研究開発の内容＞
貴重文物講習会の実施
令和 3 年度に再開した貴重文物講習会について、令和 6 年度は 3 回実施した。
[第 50 回] 2024/5/18 江戸文化の路地裏へ　―中野三敏が愛した和本たち―
講師：川平敏文 人文科学研究院教授
[第 51 回] 2024/9/5 史料保存活動の軌跡が紡ぐもの―九州文化史 90 周年記念展－ギャラリートーク
講師：梶嶋政司 附属図書館記録資料館助教
[第 52 回] 2024/11/15 クンケル先生とそのローマ法研究
講師：西村重雄 名誉教授

# 令和7年度研究開発室研究開発事項

## 総　括

| | | |
|---|---|---|
| | 事　項 | **研究開発の総括** |
| | 概　要 | 大学における学術情報の収集、加工、蓄積、提供及びその他図書館が行う学習・教育・研究支援活動の改善に関する事項のうち、九州大学附属図書館研究開発室において行う課題を指定し総括する。 |
| | 室　長 | 内田誠一（附属図書館長、理事、副学長） |
| | 担　当 | 図書館企画課 |

## Ⅰ　学習・教育活動との連携に関する分野

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 事　項 | **図書館による学習・教育支援に関する調査研究** |
| | 概　要 | 九州大学における学習・教育活動と連携した新たな教育支援のあり方について調査研究を行うとともに、図書館利用状況の分析にもとづく、新たなサービスの創出に関する調査研究を行う。 |
| | 室　員 | 福田千鶴（副館長）<br>渡邊由紀子（研究開発室）<br>清水敏之（研究開発室）<br>山田政寛（データ駆動イノベーション推進本部） |
| | 担　当 | 利用者サービス課、学術サポート室 |

## Ⅱ　コンテンツ形成および学術情報発信に関する分野

| | | |
|---|---|---|
| 2 | 事　項 | **九州大学所蔵資料および資料保存に関する調査研究** |
| | 概　要 | 九州大学が所蔵する貴重資料、コレクション等について、由来や内容、価値等の調査や、画像及び書誌データベース作成等についての調査研究を行うとともに、図書館における資料保存・管理体制等についての調査研究を行う。 |
| | 室　員 | 川平敏文（人文科学研究院）<br>岩﨑義則（人文科学研究院）<br>山口道弘（法学研究院）<br>中里見敬（言語文化研究院）<br>永島広紀（韓国研究センター）<br>赤司友徳（大学文書館）<br>梶嶋政司（付設記録資料館）<br>原口大輔（付設記録資料館）<br>Wolfgang Michel（特別研究員）<br>和仁かや（特別研究員）<br>古賀康士（特別研究員）<br>平将志（特別研究員） |
| | 担　当 | 収書整理課、eリソース課、利用者サービス課、医学図書館 |
| 3 | 事　項 | **図書館に係る学術情報の流通および発信に関する調査研究** |
| | 概　要 | 学術情報資源（研究データ等を含む）をより効果的に蓄積・発信するために、管理・発信機能の高度化と検索システムに関する研究開発を行うとともに、それらを活用した新たなサービスの創出に関する調査研究を行う。 |
| | 室　員 | 清水敏之（研究開発室）<br>冨浦洋一（システム情報科学研究院）<br>畑埜晃平（システム情報科学研究院）<br>池田大輔（システム情報科学研究院）<br>石田栄美（データ駆動イノベーション推進本部） |
| | 担　当 | eリソース課 |

## Ⅲ　図書館運営に関する分野

| | | |
|---|---|---|
| 4 | 事　項 | **図書館における高度専門知識を有する人材育成に関する調査研究** |
| | 概　要 | 国内外の図書館の動向を踏まえつつ、図書館職員の専門性および次世代を担う情報専門職の育成をはかるための調査研究を行う。 |
| | 室　員 | 渡邊由紀子（研究開発室）<br>石田栄美（データ駆動イノベーション推進本部） |
| | 担　当 | 図書館企画課、学術サポート室 |

# 沿革・会議日誌

| | |
|---|---|
| H8. 2. 20 | 評議会において「九州大学附属図書館研究開発室の設置について」を決定 |
| H8. 3. 19 | 附属図書館商議委員会において、「九州大学附属図書館研究開発室要項」承認 |
| H8. 4. 1 | 研究開発室設置（5 年期限） |
| H9. 5 | 『附属図書館研究開発室の概要』発行開始 |
| H11. 7. 1 | 教官運用定員により、専任教官として南俊朗助教授着任 |
| H13. 3. 1 | 研究開発室業務成果報告会を開催し、評議会への報告を行った。この結果、さらに 5 年間の研究開発室の存続が承認 |
| H13.10. 1 | 南助教授が九州情報大学に転出、専任教官として喜田拓也講師着任 |
| H16. 4. 1 | 喜田講師が北海道大学に転出、専任教員として池田大輔助教授着任 |
| H17. 6. 1 | 『九州大学附属図書館研究開発室年報』発行開始 |
| H18. 2.17 | 将来計画委員会において研究開発室の常設化が承認 |
| H18. 8. 1 | 池田助教授がシステム情報科学研究院に異動 |
| H18. 10. 1 | 専任教員として井上創造助教授着任 |
| H21. 5. 1 | 井上准教授が九州工業大学に転出 |
| H21. 8. 1 | 専任教員として馬場謙介准教授着任 |
| H23. 4. 1 | 専任教員として石田栄美准教授着任 |
| H27. 8. 1 | 馬場准教授が富士通研究所に転出、専任教員として畑埜晃平准教授着任 |
| H29.11. 1 | 畑埜准教授が基幹教育院に異動 |
| H30. 4. 1 | 専任教員として内山英昭准教授着任 |
| R3. 4. 1 | 内山英昭准教授が奈良先端科学技術大学院大学に転出 |
| R3. 8. 1 | 専任教員として清水敏之准教授着任 |
| R5. 1. 1 | 石田准教授がデータ駆動イノベーション推進本部に異動 |
| R6. 4. 1 | 専任教員として渡邊由紀子准教授着任 |

# 論文・発表・関連講演会等

令和 6 年度（第 29 年次：令和 6 年 4 月～令和 7 年 3 月）

## 原著論文

R6.4 Eriko Musashi, Shingo Kato, Takaaki Hosoda, Daisuke Ikeda, Characteristic analysis of elderly people using text mining, *International Journal of ICT Application Research*, vol.1, issue.2, pp.26-33, 2024.4.

R6.8 Kentaro Haraguchi, Yasuhiro Tamba, Daisuke Ikeda, Shuji Abe, Does accrual information impact municipal bond prices? Evidence from Japan using AI, *Public Money & Management*, pp.1-12, 2024.8.

R6.8 Taisei Aoyama, Linshuo Yang, Daisuke Ikeda, Flaming Participants Detection Using Account and Stylistic Characteristics from SNS, *Information Engineering Express*, vol.10, no.2, 2024.8.

R6.9 Eriko Musashi, Takaaki Hosoda, Daisuke Ikeda, Analysis of Factors Influencing the Decision-Making of the Elderly, *IIAI Letters on Business and Decision Science*, vol.4, 2024.9.

R6.11 Eriko Musashi, Takaaki Hosoda, Daisuke Ikeda, Text mining analysis of dissatisfaction felt by the elderly, *Proceedings of the International Conference on ICT Application Research*, vol.2, pp.112-117, 2024.11.

R6.12 Linshuo Yang and Daisuke Ikeda, The Influence of Linguistic Attribute Differences in Multilingual Datasets on Sarcasm Detection, *International Journal of Service and Knowledge Management*, vol. 8, no.2, 2024.12.

R7.3 和仁かや, 山根泰志, 宮嶋舞美, 九州大学法制史料 : 九州帝国大学法文学部の学問基盤, *法政研究*, vol.91, no.4, pp.325-373, 2025.3.

## 学会発表等

R6.7 Shingo Kato and Daisuke Ikeda, Improving Interpretability in Document-Level Polarity Classification by Applying Attention, Proceedings of the 16th International Congress on Advanced Applied Informatics (IIAI-AAI), pp.21-26, 2024.6.

R6.8 原口大輔, 石炭研究資料センターから記録資料館へ ―「麻生家文書」整理・研究プロジェクトを中心に―, 九州史学研究会歴史資源部会, 2024.8.

R6.10 原口大輔, 麻生太吉と福岡市, 第 19 回福岡市史講演会, 2025.10.

R6.12 Kana Fukushima, Yukiko Watanabe, Emi Ishita, Sakura Yasuda, Tokinori Suzuki, Preliminary Analysis of Research Data Policies in Japanese Universities. In: Oliver, G., Frings-Hessami, V., Du, J.T., Tezuka, T. (eds) Sustainability and Empowerment in the Context of Digital Libraries. ICADL 2024. Lecture Notes in Computer Science, vol.15493. Springer, Singapore. https://doi.org/10.1007/978-981-96-0865-2_10

R6.12 渡邊由紀子, 研究データのオープン化と大学図書館―九州大学の事例から― , 九州大学大学院人文情報連係学府主催シンポジウム「接続する人文学 : 図書館, 文書館と研究データ」, 2024.12.

R7.3 清水敏之, 中原陽子, 島井博行, 地球環境データに対するメタデータへの付加情報の管理, 第 17 回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム (DEIM 2025), 2025.3.

## 著書・総説・論評・解説・書評・報告書等

R6.4　原口大輔, 「感情之衝突」と「融和」 ―第二次護憲運動の余韻―, *法律時報*, vol.96, no.4, pp.扉, 2024.4.

R6.7　原口大輔, まぼろしの船越湾開発, *西日本文化*, no.511, pp.76-77, 2024.7.

R6.7　原口大輔, 〈新刊紹介〉法政大学大原社会問題研究所／榎一江編『無産政党の命運 日本の社会民主主義』, *九州史学*, no.197, pp.50, 2024.7.

R6.11　原口大輔, 新規整理分「麻生家文書」目録（五）, *石炭研究資料叢書*, vol.46, pp.1-301, 2024.11.

R6.12　原口大輔, 明治・大正期の糸島地域と未完のインフラ構想, 人社系協同研究・教育コモンズ第 29 弾企画シンポジウム, 2024.12.

R7.1　中里見敬, 顧偉良, 齊藤大紀, 杉村安幾子, Susan Daruvala, 中野徹, 中野知洋編, 周作人宛日本語書簡目録（簡易版）附：購書一覧, 言語文化叢書, vol.24, 九州大学大学院言語文化研究院, 407pp., 2025.1.

R7.3　渡邊由紀子, 北欧の美しい図書館（資料紹介）, *専門図書館*, no.320, p.52-53, 2025.3.

R7.3　原口大輔, 新規整理分「麻生家文書」目録（六）, *石炭研究資料叢書*, vol.47, pp.2-261, 2025.3.

R7.3　原口大輔, 横路孝弘オーラルをめぐるいくつかの所感, *史友*, vol.57, pp.63-87, 2025.3.

R7.3　原口大輔, 浜の町別荘と「大正四年 日誌 麻生別荘」, *エネルギー史研究―石炭を中心として―*, vol.40, pp.137-181, 2025.3.

# 学会活動

令和 6 年度（第 29 年次：令和 6 年 4 月～令和 7 年 3 月）

### 学協会役員等への就任

| | |
|---|---|
| 渡邊由紀子 | 2023.4, 日本図書館情報学会,編集委員. |
| 清水敏之 | 情報処理学会データベースシステム研究会,幹事. |
| 清水敏之 | 電子情報通信学会データ工学研究専門委員会,専門委員. |

### 学会・研究会における座長等

| | |
|---|---|
| 清水敏之 | 第 17 回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム(DEIM 2025),ローカル共同委員長. |
| 池田大輔 | 18th International Conference on E-Service and Knowledge Management (ESKM 2024) Conference Chair. |

### 学会誌・雑誌・著書の編集への参加状況

| | |
|---|---|
| 清水敏之 | 情報処理学会論文誌,編集委員. |

### 学術論文等の審査

| | |
|---|---|
| 池田大輔 | New Generation Computing, 18th International Conference on E-Service and Knowledge Management (ESKM 2024), 電子情報通信学会論文誌, 19th International Conference on E-Service and Knowledge Management (ESKM 2024-Winter), Information Engineering Express. |

# 調査・視察等

令和 6 年度（第 29 年次：令和 6 年 4 月～令和 7 年 3 月）

| | | |
|---|---|---|
| R6.7.23-8.4 | 石田栄美, 宮﨑祐汰, 岡村菜々子 | オープンサイエンス・オープンアクセスの海外事例調査（オーストリア、イギリス） |
| R6.9.5-6 | 帆足優希, 久保敦志, 星子奈美，宮﨑祐汰，佐野直樹，斎藤友利子 | 第 12 回大学図書館学生協働交流シンポジウム（オンライン） |
| R6.9.10-22 | 佐野直樹 | オープンサイエンス・オープンアクセスの海外事例調査（オーストラリア） |
| R6.10.21-23 | 西真里恵 | 西洋社会科学古典資料講習会（於：一橋大学社会科学古典資料センター） |
| R6.10.28-11.1 | 原賀可奈子 | 漢籍担当職員講習会（中級）（於：京都大学人文科学研究所附属 |

| | | |
|---|---|---|
| | | 人文情報学創新センター） |
| R6.11.11-18 | 金子芙弥，室井万穂，西真里恵 | 2024 チャールストン会議への参加（アメリカ） |
| R7.1.20 | 宮﨑祐汰, 佐野直樹, 岡村菜々子 | 国際シンポジウム「これからの大学図書館のための戦略的プランニング ： オープンアクセス、オープンサイエンスの時代に、大学図書館の新しい機能をどう実現するか」および情報交換会（於：千葉大学） |
| R7.2.13-14 | 鈴木雅子, 堀優子, 瓜生照久，芦北卓也，春藤ゆう，星子奈美，佐野直樹 | KOOU-RDM スタートアップワークショップ（於：オリオンホテル那覇） |
| R7.2.14 | 鈴木雅子, 堀優子, 芦北卓也，星子奈美，佐野直樹 | OA 加速化事業に係る意見交換（於：琉球大学） |
| R7.2.15-23 | 石田栄美, 安田さくら, 宮﨑祐汰，岡村菜々子 | IDCC25 (The 19th International Digital Curation Conference) への参加、および、ポスターセッションでの発表／オープンサイエンス・オープンアクセスの海外事例調査（オランダ） |
| R7.3.4-12 | 石田栄美, 星子奈美, 工藤絵理子，西真里恵 | オープンサイエンス・オープンアクセスの海外事例調査（ドイツ） |

# 関連規則等

## 九州大学附属図書館規則

平成１６年度九大規則第１３９号
施行：平成１６年４月１日
最終改正：令和６年３月１３日
（令和５年度九大規則第２９号）

（趣旨）
第１条　この規則は、九州大学学則（平成１６年度九大規則第１号。以下「学則」という。）第１０条第２項の規定に基づき、附属図書館の内部組織その他必要な事項を定めるものとする。

（目的）
第２条　附属図書館は、図書館資料を収集管理し、九州大学（以下「本学」という。）の職員及び学生の調査・研究に資することを目的とする。

（館長）
第３条　学則第２５条の規定により、附属図書館に、館長を置く。

（副館長）
第４条　学則第２５条の規定により、附属図書館に、副館長を置く。

（中央図書館）
第４条の２　附属図書館中央図書館（以下「中央図書館」という。）を、伊都地区イーストゾーンに置く。

（分館）
第５条　附属図書館に、分館として、病院地区に医学図書館を、大橋地区に芸術工学図書館を、筑紫地区に筑紫図書館を、伊都地区ウエストゾーンに理系図書館を置く。

（分館長）
第６条　分館（理系図書館を除く。）に、分館長を置く。
２　医学図書館の分館長（「医学図書館長」と称する。）は、病院地区に置かれた部局の教授をもって充てる。
３　芸術工学図書館の分館長（「芸術工学図書館長」と称する。）は、大橋地区に置かれた部局の教授をもって充てる。
４　筑紫図書館の分館長（「筑紫図書館長」と称する。）は、筑紫地区に置かれた部局の教授をもって充てる。
５　分館長は、館長の統轄のもとに、分館の事務を掌理する。

（研究開発室）
第６条の２　附属図書館に、研究開発室を置く。
２　研究開発室の業務及び組織に関し必要な事項は、総長の承認を経て、館長が定める。

（部局図書室）
第７条　附属図書館に、別府病院図書室を置く。

（記録資料館）
第８条　附属図書館に、記録資料館を付設する。

２ 記録資料館の組織、運営等に関し必要な事項は、別に定める。

（商議委員会）
第９条　附属図書館に、図書館に関する重要事項を審議するため、商議委員会を置く。
２ 商議委員会の組織、議事の手続その他必要な事項は、別に定める。

（運営委員会）
第１０条　中央図書館及び分館（以下「中央図書館等」という。）に、中央図書館等の運営等を審議させるため、運営委員会を置く。
２ 各運営委員会の組織、議事の手続その他必要な事項は、当該中央図書館等が置かれた地区の部局の意見を聞いて、館長が定める。

（運営）
第１１条　この規則に定めるもののほか、附属図書館の運営等に関して必要な規則は、別に定める。

附　則
この規則は、平成１６年４月１日から施行する。
附　則（平成１６年度九大規則第２２７号）
この規則は、平成１７年４月１日から施行する。
附　則（平成１７年度九大規則第１６号）
この規則は、平成１７年１０月１日から施行する。
附　則（平成１７年度九大規則第８８号）
この規則は、平成１８年４月１日から施行する。
附　則（平成１８年度九大規則第１２７号）
この規則は、平成１９年４月１日から施行する
附　則（平成２０年度九大規則第１０５号）
この規則は、平成２１年４月１日から施行する。
附　則（平成２２年度九大規則第１５２号）
この規則は、平成２３年４月１日から施行する。
附　則（平成２３年度九大規則第７号）
この規則は、平成２３年６月１日から施行し、平成２３年４月１日から適用する。
附　則（平成２４年度九大規則第５６号）
この規則は、平成２５年４月１日から施行する。
附　則（平成２６年度九大規則第１０９号）
この規則は、平成２７年４月１日から施行する。
附　則（平成３０年度九大規則第４０号）
この規則は、平成３０年１０月１日から施行する。
附　則（令和４年度九大規則第４０号）
この規則は、令和５年４月１日から施行する。
附　則（令和５年度九大規則第２９号）
この規則は、令和６年４月１日から施行する。

## 九州大学附属図書館研究開発室規程

平成１７年度九大規程第５４号
施　　行：平成１８年４月１日
最終改正：令和　６年７月１日

（令和６年度九大規程第１６号）

（趣旨）
第１条　この規程は、九州大学附属図書館規則（平成１６年度九大規則第１３９号）第６条の２の規定に基づき、研究開発室の業務及び組織に関し必要な事項を定めるものとする。

（業務）
第２条　研究開発室は、次に掲げる業務を行う。
(1) 研究開発の総括
(2) 学習・教育活動との連携に関する分野の調査研究
(3) コンテンツ形成及び学術情報発信に関する分野の調査研究
(4) 図書館運営に関する分野の調査研究
(5) その他図書館機能の高度化に関する研究開発

（組織）
第３条　研究開発室は、室長及び室員をもって構成する。

（室長）
第４条　室長は、附属図書館長をもって充てる。
２ 室長は、研究開発室の業務を掌理する。

（運営委員会）
第５条　研究開発室に、研究開発室の重要事項を審議するため、研究開発室運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。
２ 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
(1) 室長
(2) 附属図書館副館長
(3) 研究開発室に所属する教員
(4) その他室長が必要と認めた者　若干人
３ 前項第４号の委員の任期は、２年とする。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
４ 前項の委員は、再任されることができる。
５ 運営委員会に委員長を置き、室長をもって充てる。
６ 委員長は、運営委員会を主宰する。

（室員）
第６条　室員は、研究開発室に所属する教員並びに次条及び第８条に規定する者をもって充てる。
２ 室員は、室長の命を受け、研究開発室の業務を行う

（兼任の教員）
第７条　研究開発室に、兼任の教員を置くことができる。
２ 兼任の教員は、九州大学の教員のうちから附属図書館長の推薦に基づき、総長が任命する。
３ 兼任の教員の任期は、兼任の教員となった日の属する年度の末日までとし、再任を妨げない。

（研究開発室特別研究員）
第８条　附属図書館長は、研究開発室の業務を推進するため、学外有識者を研究支援者として委嘱することができる。
２ 前項の研究支援者を研究開発室特別研究員と称する。
３ 研究開発室特別研究員の任期は、研究開発室特別研究員となった日の属する年度の末日までとし、再任を妨げない。

（雑則）
第９条　この規程に定めるもののほか、研究開発室の業務等に関し必要な事項は、室長が定める。

附　則
この規程は、平成１８年４月１日から施行する。
附　則（平成２０年度九大規程第８号）
１　この規程は、平成２０年６月１２日から施行する。
２　この規程の施行後、最初に委嘱される研究開発室特別研究員の任期は、この規程による改正後の九州大学附属図書館研究開発室規程第７条第３項の規定にかかわらず、平成２１年３月３１日までとする。
附　則（平成２２年度九大規程第２３号）
この規程は、平成２２年７月２１日から施行し、平成２２年７月１日から適用する。
附　則（平成２２年度九大規程第１７１号）
この規程は、平成２３年４月１日から施行する。
附　則（平成３０年度九大規程第３６号）
この規程は、平成３０年１０月１日から施行する。
附　則（令和３年度九大規程第５１号）
この規程は、令和３年７月５日から施行する。
附　則（令和６年度九大規程第１６号）
この規程は、令和６年７月１日から施行する。

## 九州大学附属図書館研究開発室運営委員会要項

（趣旨）
第１条　この要項は、九州大学附属図書館研究開発室規程第５条に規定する研究開発室運営委員会（以下「運営委員会」という。）の運営に関し必要な事項を定めるものとする。

（任務）
第２条　運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。
(1) 研究開発室の教員人事に関すること。
(2) 教員の研究業務に係る重要事項に関すること。
(3) 研究開発室内の諸規則等の制定改廃に関すること。
(4) 研究開発室の自己点検・評価に関すること。
(5) その他研究開発室の管理運営に関すること。
２　前項第１号に掲げる事項のうち、教員の選考のための資格審査については、原則として、研究開発室に設置する教員選考委員会において行うものとする。ただし、必要に応じて研究開発室の教育研究に関係する部局の教授会において行うことができる。

（議事）
第３条　運営委員会は、委員の２分の１以上の出席がなければ、議事を開き、議決することができない。
２　運営委員会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

（意見の聴取）
第４条　運営委員会において、委員長が必要と認めるときは、委員以外の者に出席を求め、その意見を聞くことができる。

（事務）
第５条　運営委員会に関する事務は、図書館企画課において処理する。

（雑則）

第６条　この要項に定めるもののほか、運営委員会の運営に関し必要な事項は、運営委員会の議を経て、室長が定める。

附　記
この要項は、平成２３年６月６日から実施し、平成２３年４月１日から適用する。

## 九州大学附属図書館研究開発室要項

(趣　旨)
1　この要項は、九州大学附属図書館研究開発室規程（平成１７年度九大規程第５４号）第９条の規定に基づき、九州大学附属図書館研究開発室（以下「研究開発室」という。）の業務等に関し必要な事項を定めるものとする。

(研究開発)
2　附属図書館長は、研究開発事項及び期間を定め、研究開発事項に適した者を室員として選抜するものとする。

(総長への室員の推薦)
3　附属図書館長は、総長に室員を推薦するにあたり、室員が所属する部局等の長の承諾を得るものとする。

(研究開発成果等の報告)
4　研究開発室長は、研究開発の成果及び進捗状況を適宜商議委員会等に報告するものとする。

(運営経費)
5　研究開発室の運営に関する経費は、附属図書館の予算上可能な範囲で支弁するものとする。

(その他)
6　この要項に定めるもののほか、研究開発室の運営については、研究開発室長の定めるところによる。

附　則
この要項は、平成８年４月１日から実施する。
附　則
この要項は、平成１３年７月１６日から実施し、平成１３年７月１日から適用する。
附　則
この要項は、平成１８年４月１日から実施する。
附　則
この要項は、平成２３年７月２５日から実施し、平成２３年４月１日から適用する。

## 九州大学附属図書館研究開発室年報　編集規定

（目的）
1　本誌は、本学附属図書館研究開発室の年間の活動状況を報告することを主たる目的とし、併せて、本学附属図書館研究開発室員及び本学図書館職員の研究活動成果としての論文、報告記事等を掲載することを目的とする。

（編集委員会）
2　編集委員会を本学附属図書館研究開発室に置く。編集委員会は、館長、副館長、研究開発室専任室員、事務部長から構成する。

（論文・記事の投稿）

3　投稿原稿は、投稿規定に従い、下記編集事務局へ送付または持参する。投稿原稿は、上記編集目的に沿った未発表原稿であること。

<投稿先>

附属図書館図書館企画課企画係

（編集事務）

4　編集事務は、附属図書館図書館企画課企画係において処理する。

（校正）

5　初校及び再校は、投稿者の責任において行う。

## 九州大学附属図書館研究開発室年報　投稿規定

1　本誌への投稿資格者は、以下のいずれかに該当する者とする。

1）本学附属図書館研究開発室員及び本学図書館職員

2）１に該当する者との共同研究者または共著者

3）１に該当する者から推薦され、編集委員会から許可を得た者

2　本誌に掲載される原稿は、未公刊の内容のものとし、文献種別は下記の種類から選択する。

1）論文

2）報告

3）目録

4）資料紹介

5）事例紹介

原稿は横書きとし、指定のテンプレートファイルを用いて作成すること。

ページ数については、１・２・３は２０ページ以内、４・５は１～２ページ程度を目安とする。内容的に資料・事例紹介であっても、長文となる場合は２を選択する。

縦書きを希望する場合、ページ数が超過する場合は、投稿申込時に編集事務担当に相談すること。

横書き１段組み　１行４４字・４８行（２１１２字）

3　原稿は電子ファイルでの投稿を原則とする。本文は MS-Word 形式とし、附表は MS-Excel 形式、図は jpg、png、gif、tiff、ai、bmp、pict、eps 形式とする。TeX 形式等これら以外の形式のファイルで提出する場合は、投稿申込時に編集事務担当に相談すること。

4　原稿は次の順に記載する。

1）文献種別　2）標題（和文）　3）執筆者名（和文）　4）抄録（和文）　5）キーワード（和文）　6）標題（欧文）　7）執筆者名（欧文）　8）本文　9）引用文献、参考文献

文献種別が目録・資料紹介・事例紹介の場合、抄録は不要とする。なお、執筆者の所属･職名･住所･連絡先は１ページ目下部に、脚注については各ページの下部に記載することとする。

5　表記は次のとおりとする。

1）表記は常用漢字、現代かなづかいに従う。

2）数字は算用数字を用いる。

3）フォントは和文では MS 明朝、欧文では Times New Roman を使用する。

4）フォントサイズは以下の通りとする。

・タイトル：16pt

・サブタイトル：14pt

・執筆者名：12pt

・欧文タイトル：16pt
・欧文サブタイトル：14pt
・欧文執筆者名：12pt
・段落みだし：10.5pt（太字）
・本文、抄録･キーワード：10pt

5） 和文の句読点は「。」「、」とし、欧文の句読点は「.」「,」を使用すること。
6） 引用文献、参考文献の記載は、投稿者の専門学問領域の慣行に従うこと。
7） 表・図・図版については、投稿時に挿入位置に貼り付け、キャプションをつけること。また、別途原図を提出すること。キャプションは表については上部に、図・図版については下部に配置する。どちらもセンタリングすること。キャプションのフォントサイズは 9pt とする。
8） 特定の文字列にハイパーリンクを設定する場合は、コメント機能等によりその旨編集事務担当がわかるようにすること。

6　本誌は九州大学学術情報リポジトリ（QIR）により発行し、その日付を奥付の発行日とする。
本誌に掲載された著作物の著作権は著者に帰属する。当該著作物は、クリエイティブ・コモンズ 表示-非営利-改変禁止 4.0 国際（CC BY-NC-ND 4.0）ライセンス及びその後継版のもと公開する。著者の希望がある場合は、その他のクリエイティブ・コモンズ・ライセンスを選択することも可能とする。
https://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/deed.ja

7　提出原稿には全ての著者の ORCID iD を記載することを推奨する。記載された ORCID iD は掲載原稿にも表示する。ORCID iD の詳細については以下を参照のこと。https://orcid.org/